

事業の概要

■ 道 路



- 道路は、社会資本全体の効率的な利用を可能にする役割を担う、最も基本的な公共施設です。
- 釧路建設管理部では、地域住民の安全で安心な生活を確保するとともに、観光振興や物流促進による地域経済の活性化を図るため、道路改良や舗装、橋梁の整備、歩道整備、維持補修などの事業を進めています。

生活を支える安全な道づくり

『知床公園羅臼線』は、「魚の城下町」羅臼町市街地と、知床岬への最終中継地・相泊漁港を結ぶ唯一の道路であり、地域住民の生活や基幹産業である漁業のほか、世界遺産に登録された秘境知床国立公園への玄関口として欠くことのできない重要な幹線道路です。

しかし、平成6年10月の北海道東方沖地震の際には、大規模な岩塊崩落が発生し19日間にも及び通行止めとなったほか、平成28年8月の台風による大雨で土砂崩れが発生し、760人が孤立しました。地域の生活を支え、道路の利用者が安心して通行できるよう、落石対策やトンネルの整備などの防災対策に努めています。



【平成28年8月 知床公園羅臼線の土砂崩れ(羅臼町)】



【マッカウストンネル(羅臼町)】
トンネル延長498.5mの内、150mに防水型構造(ウォータータイト)を採用し、平成26年3月に供用開始

地域の産業・観光を支援する道づくり



【根室中標津線(別海町)】

管内の主要産業である農林水産業や観光をはじめとした経済活動を支えるとともに、地域間の交流・連携や物流に必要不可欠な高規格道路、広域的な医療を支える円滑な地域交通を確保する道路網として『根室中標津線』などの整備を進めています。



【上庶路庶路停車場線(白糠町)】

北海道横断自動車道に連結する庶路IC及び阿寒ICが、平成28年3月に供用を開始し、平成31年3月に釧路外環状道路の釧路別保ICが開通、令和2年3月には根室管内では初めてとなる高規格道路の根室道路(温根沼IC～根室IC)が開通しました。

また、釧路空港へのアクセス向上のため『釧路空港IC(仮称)』の整備を進めており、地域経済の活性化が図られることが期待されます。

安全・安心な道づくり

『薫別川北線』は、羅臼町から標津町、中標津町(釧路方面)への重要なアクセス道路であるとともに、災害時には、避難道路として国道335号線の代替路となります。勾配が急で曲がりくねった区間については、新ルートの開削を行い、安全で円滑な通行の確保に努めています。



【薫別川北線(標津町)】

冬に強い道づくり



【中標津標茶線スノーシェルター(別海町)】

北国の産業や生活を担う、安全な道路交通を確保し、快適な北国の生活を創造するため、『中標津標茶線』などで防雪柵やスノーシェルターなどの防雪施設の整備を進めています。